

# PPI胃症？



PPI（プロトンポンプインヒビター）が1991年に保険適応となって以降、胃十二指腸潰瘍の手術は激減し、逆流性食道炎も改善、2010年には低用量アスピリン内服者の潰瘍再発に対しPPI併用が保険適応、2014年にはさら最も酸分泌を抑制するP-CAB（カリウムイオン競合型アシッドブロッカー）も発売され、胃酸関連疾患の治療や予後は著明に改善しました。しかし、最近は長期服用者が増え、様々の副作用の可能性も報告されています。内視鏡では胃にポリープの発生や増大、胃粘膜の敷石状変化など、PPI胃症といわれる変化を認め、胃癌の発生率の増加を示す報告も散見されるようになりました。長期PPI投与中の方は、ぜひ一度胃カメラ検査で胃粘膜の評価をご考慮下さい。

平素のご厚情ご指導まことにありがとうございます



胃酸の低下は、腸内細菌叢の変化につながります。腸内細菌は迷走神経を介して脳と情報交換を行っていることが判明し、腸内細菌の変化とメンタル疾患の関連も報告されています。PPI長期服用者で、消化管不定愁訴に対し、投薬数が増え続けている方はぜひ一度見直しましょう。

小腸内視鏡を用いた小腸検査・治療や術後の胆道治療に取り組んでいます

該当患者様やお困りの患者様がおられましたら是非お気軽にご相談下さい

## 地域連携を通じた胃カメラ検査の直接予約

病院ホームページから申込書をダウンロードいただけます

近大 内視鏡検査予約

検索

